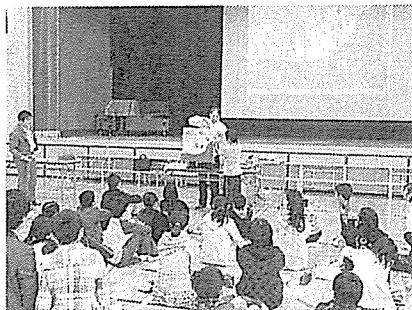


建設産業戦略的広報推進協

小学校で初キャラバン

模型使い土砂災害説明



国土交通省や建設業団体など組織する「建設産業戦略的広報推進協議会」（事務局・建設業振興基金）は26日、さいたま市立新和小学校（6年生）を訪問し、子どもたちに建設業の魅力や役割を直接語り掛ける“キャラバン”を実施した。小学校で初めて実施した。まず建設業振興基金金経営基盤整備支援センター人材育成支援課の松繩修主任が建設業の仕事や役割などについて、サッカーの監督、選手と同じようにそれぞれ役割があることや災害時に真っ先に現場に行つて道の整備などの作業を行っていることなどを説明し、子どもたちは熱心に聞き入っていた。

続いて関東地方整備局建政部の下岡壽建設産業調整官が、生徒の修学旅行（日光）の体験を踏まえ、高速道路や小さなダム（砂防堰堤）、がけが修理されている様子を題材に、それぞれどのような役割を担っているかを生徒に発表してもらい、それを補足する形で関東・東北豪雨災害での活躍などを含め、建設業の役割を説明し、理解を促した。座学に続いて土木学会の藤井俊逸氏が、学会が作成した「実験で学ぶ土砂災害」に沿って、土砂災害のメカニズムや対策などを模型を使って生徒とともに実演＝写真。水がしみこんだ土砂について「ふんばる力」という言い回しなどで分かりやすく説明し、生徒の関心を誘った。

最後に生徒から「模型の実験が印象に残った。さまざまなもの対策などがあつて勉強になりました」「普段考えていないことを考えるきっかけになった」といった感想が示された。